

ごみゼロネット推進会（第12回）議事録

開催日： 2009年（H21年）7月6日（月）10:00～12:15

場所： ウエスト

出席者： 平林、加藤、市原、杉本、大橋、加賀谷、桐生（作成）

議題：

1. 「平成21年度東京都地球温暖化対策等推進のための区市町村補助金」申請についての経過説明（平林）

- 過日、平林氏が中平名誉教授とご同行いただき、東京農工大学の神谷教授にご紹介いただいている6/18午後、平林氏、大橋氏、桐生の三名が基礎研究の具体的内容のご相談をさせていただくために参上した。神谷教授は補助金が出た場合はチームを編成して当たる、研究設備はあるがマンパワーが不足しているのが問題だが、他大学の知り合いに応援を頼んで推進したいと前向きな回答をいただくことができた。
- 翌6/19、平林氏、大橋氏、桐生の三名が稲葉市長に面会して、標記補助金申請書を提出、小金井市として東京都に提出されるようお願いした。稲葉市長は「場所問題が解決するまでは、ごみ減量の活動以外は手を出せない」と否定的だが、平林氏は「場所選定とこの基礎研究を併行して進めることは少しも矛盾していない」と反論、最後に稲葉市長が「受け取って検討します」と答えて会談は終わった。（この2件の面談記録を配布した）

2. 今後の進め方の相談

平林： 堀内氏と相談の結果、①何ト CO₂削減と言う時、処理時や運搬での CO₂発生量等の詳細な収支データが必要、②基礎研究の次に小金井市は実際にどれだけの CO₂削減が実現できるのか、その先のストーリーも示すことが必要、等の助言を受けた。

- 近日、神戸製鋼でコークス節減をご担当の関係者にお会いするので、その時に3時間ほどお話しいただこうと思う。メールで案内するから、参加できる方は来ていただきたい。

加藤： 炭素換算係数にしても国連のものもあるし、環境省の数値もある。補助金申請書の審議会でこれらの数値の根拠について必ず質問が出るので、それに備えることが大切。

杉本： 現実には会いに行っても市長が否定的と判ただけでも大きな前進。東京都への申請もうるさいことを言われるかも知れないが、炭素化を提案したという実績が残ることが重大な意味を持つ。このような議論が市民の間で行われている小金井は全国的にも先進的な存在である。

平林： 市長が否定的でも、その返事は文書でもらいたいと思っている。市長のブログ欄に書き込めば、市長は翌日には返事を書くルールになっているので、それを使おうかと思う。自分はその方面の技能がないので、誰か助けてほしい。（大橋さま。支援願います。）

加藤： 議会議事録にも炭素化補助金申請の話は市長側から話題にした形跡がない。（無視された！）

- 三上部長たちが EEN 社の見学に行っているのに、稲葉市長には某所より「非焼却は見学に行ってはならない」と止められているといわれる。焼却炉メーカーや一部事務組合からの圧力は大変なもので、宮古島では炭素化設備の契約書まで交わしながら、この2年間停滞している。小諸市も市長が熱心だというのに、6月に導入契約締結の筈が7月になっても決着していない。小金井市で施設問題で一番発言力がある藤田氏は「加藤さん、非焼却は絶対にやらないからね」と断言しており、市の公式発言「新方式も検討する」は全くのリップサービスである。

大橋： これ以上押すとまずくなりそうだ。補助金申請が来年度になっても仕方がない。この機会に神谷教授と良い関係ができたのが大きな収穫で、それを大事にしたい。

平林： 一部事務組合は組合の存続のためになりふり構わず非焼却の動きを圧殺してくる。設立以来30年経って

もうそろそろ無くなって良い頃だと思うが。小金井市の総予算300億円の内、約30億円をごみ処理に掛けているのは異常でなからうか。

国分寺や府中でも、公平に見て焼却でないと絶対駄目という人は殆どいない。小金井だけで頑張っても手が出せないようなので、周辺自治体の市民と手を繋いでやる時期が来たのではなからうか。

市原： 行政の人を含めて多くの市民が集まるごみ大学等で「建て替え」をテーマにやるのも一つの方法かと思う。

加藤：立川、日野、あきる野等焼却炉の建て替え計画は6ヶ所ある。あれだけ非焼却といていた町田市が今では

「効率がよい焼却施設を作る」と言っている始末である。

- 三鷹市は9月に焼却施設の建設認許が出る微妙な時期にある。市の当所計画は建築基準法上限の建物高さ38mであったが、住民は25mを要求、28mで歩み寄った。ガス溶融炉で計画したが、灰がエコセメントへ行かなくなるので、一部事務組合から「エコセメントを潰す気か」と迫られ、ストーカ炉に変更している。
- 小金井市が非焼却をやるとか民間処理業者を使うとなれば一部事務組合から抜けることになり、大事になる。

杉本：全量引き揚げでなく、一部は残すということならよいのではないか。

市原：まだ我々が働きかけていない市議会の会派がある。篠原さん、改革連合等への働きかけを進めたい。

桐生：小金井市が今回の補助金申請をしないことが確実にになったら、代わって申請してくれそうな自治体に持ち込んで、その発案として東京都に申請してもらおうよう働きかけるから承知して欲しい。基礎研究で得られる成果は、炭素化を導入する全ての自治体に役立つ知的資産である。着手を遅らせる損失が大きい。

加藤：これから焼却炉を建設する三鷹市の立場では申請できないのではないか。

大橋：神谷教授と我々の関係樹立に支障がありそうで、好ましくない。

杉本：小金井市があくまでも反対なら、大局的見地からやむをえない行動だと思う。

3. 炭化か炭素化か

大橋：（「炭化（炭素化）によるごみ処理法」（4頁）を配布）研究者たちは学術的には1000℃以上で純粋炭素を作る場合を炭素化と呼んでいる。炭素化で検索してヒットするのは我々のホームページくらいだ。この機会に学術的に正しい称呼にしたい。

加藤：行政的と科学的をごっちゃにした議論である。テクノやEENはガスを燃焼してしまう従来方式とは違い燃焼させないで資源にするとの意味を込めて炭素化と命名している。

- ①500℃ではなく450℃であることがポイント、②完全窒素ガス雰囲気であることにも違いがある。

市原：炭素化をそんなに厳密に定義しても、全く知らない人には難しすぎて判らなくなるのではないか。社会的に通用しないと思う。一度、EEN等の人に来てもらって話してもらってはどうか。

杉本：素人に判るように炭化と炭素化の違いを話してほしい。

平林：炭素化でよいのではないか。

大橋：学術的に正しくない定義が固まってしまうのは避けたい。

（この問題はお互いの意見の歩み寄りがなく、次回に引き継ぐこととなった）

4. その他の議題

平林：次回からはごみ処理の多くの方法について、モデルを作って誰にでも判るように総合評価をすることにしたい。（一同、賛成）

以上

次回打合せ 日時：8月3日（月）10:00～12:00 / 場所：ウエスト



